（西暦）2023 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること）

回復期リハビリテーション病棟入院患者のスマートフォン利用に関する作業療法士の認識と支援の現状

学位の種類： 修士（ 作業療法学 ）

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 22896704

氏 名：芝地 杏花

（指導教員名： 小林 法一 教授 ）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（英語の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

【はじめに】

近年、スマートフォンの普及は目覚ましく、その利用は豊かな生活を送るうえで誰にとっても欠かせなくなりつつある。それは、回復期リハビリテーション病棟に入院するクライアントにとっても同様である。実際、リハビリテーション提供施設においてもスマートフォンに関する支援が始まっており、自助具の導入やアクセシビリティの設定、代償手段としての利用等、機器の操作そのものの支援や便利な機能を利用することで新しい形での作業参加が可能となった事例が散見されている。スマートフォンの利用に関する支援は今後さらに求められると考えられるが、これまでの先行研究は地域高齢者を対象としたものや事例報告がほとんどで、回復期リハビリテーション病棟患者におけるスマートフォンに関するニーズやその支援状況は十分に明らかとなっていない。

【目的】

病院入院中のクライアントのスマートフォンに関するニーズに対する作業療法士の支援状況を明らかにすることである。

【方法】

全国の回復期リハビリテーション病棟に勤務する作業療法士を対象に、スマートフォンの支援状況に関するアンケートを行った。

【結果】

32 施設の作業療法士 187 名より回答を得た。回収率は 53.1%であった。対象者の 180 名（96.3%）が「作業療法士は入院患者様に対しスマートフォンの支援をするべきだと思う」と回答しており、一部では元々利用していない方に対する ICT 機器利用促進のような積極的な支援も行われていた。一方、作業療法士がニーズを認識していたにも関わらず実際の支援に至らなかったニーズの存在も明らかとなった。支援経験数と有意に相関していた項目には、経験年数、作業療法士自身のスマートフォン支援の優先順位の認識、他部門からの理解があった。

【考察】

今回、病院入院中の患者が持つニーズの一部と、それに対する作業療法士の支援状況が明らかとなった。作業療法士自身のテクノロジーに関する関心や周囲からの理解を得ていくことの重要性については先行研究でも指摘されており、これらを支持する結果であった。今後は支援状況に影響すると考えられるその他の要因についても調査し、ニーズに応える作業療法支援へとスムーズに繋げる方策を検討するのが課題である。